令和6年度 第2回新宿区子ども読書活動推進会議 会議概要

令和7年1月16日（木）

午前10時から11時30分まで

新宿区立中央図書館 4階イベントルーム

**出席者：野口座長・神谷委員・木本委員・中丸委員
徳永委員・関本委員・山本委員・関口委員**

神谷 少し早いですが、皆さま、お集まりですので始めさせていただきます。皆さま、本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。事務局のこども図書館、神谷と申します。よろしくお願いいたします。

最初にお願いですが、この会議は録音させていただき、文字起こししてホームページで公開させていただいております。ご了承いただきたく、お願いいたします。

続きまして、会議の成立の確認です。委員の方は全員で10名、本日、ご出席の方は8名です。ご出席の人数が過半数を超えておりますので、この会議の設置要綱、第4条に定める定足数を満たし、会議は成立することをご報告いたします。よろしくお願いいたします。

続きまして、配布資料の確認です。最初に次第、次の令和6年度の推進会議委員名簿。こちらは令和7年1月1日付で変更になったものになります。続きまして、資料1、新宿区立図書館を使った調べる学習コンクール、応募状況等についてというホチキス留めの資料になります。続きまして、資料2の1、絵本でふれあう子育て支援事業の、配布絵本選定候補の一覧になります。続いて資料2の2、先ほどの物と似たような形式になるのですが、配布絵本選定の投票用紙になります。

最後に資料番号は記載がないのですが、第六次 新宿区子ども読書活動推進計画の、読書感想文『けやき』について記載がある資料が1枚ございます。不足がある方はいらっしゃいますでしょうか。

では、ただ今から令和6年度第2回新宿区子ども読書活動推進会議を開催いたします。初めに、中央図書館長からごあいさつを申し上げます。よろしくお願いいたします。

山本 あらためまして、皆さん、おはようございます。

一同 おはようございます。

山本 中央図書館長の山本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。皆さん、ご存じかと思いますが、この子ども読書活動推進会議につきましては、子どもたちの読書環境を整えるということと、どういうふうにしたら読書環境を整備していけるのかというよ

うなことを議題に話し合いをしていきたいというふうに考えてございますので、よろしく
お願いしたいと思います。

また、こちらの図書館なんですけれども、実は年末年始に図書館システムの更新を行いま
して、昨日から新しいシステムで開館を始めているところでございます。システム更新した
関係で、細かい不具合は若干、あるんですけれども、昨日、きょうの時点では大きな事故も
なく運用できておりますので、この場を借りてお伝えをさせていただければと思います。よ
ろしくお願いいたします。

あと、また、今、インフルエンザですとかの感染症がはやってますので、すいません、実
は私も年末にインフルにかかってしまいまして、1週間ほど休ませていただいたっていうこ
ともありましたので、皆さまもかかった方も、かかってない方もいらっしゃるかと思います
けれども、体調に留意しながら健康に注意していただければと思いますので、よろしくお願
いいたします。

あとは、本当に子どもたちのために、私たちが少しでもできることを考えていきたいと思
っていますので、今後とも、またよろしくお願いしたいと思います。あいさつとさせていた
だきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

神谷 ありがとうございます。続いて、自己紹介に移らせていただきます。第1回の推進
会議まで委員をされていた、新宿区立小学校 PTA 連合会の木下委員は転出に伴い退任され
ました。それに伴い、新しく神谷委員が就任されました。簡単に自己紹介をお願いいたしま
す。

神谷 皆さん、おはようございます。

一同 おはようございます。

神谷 木下が引っ越すということで、急きよ、誰かやってくれということで、私、神谷にな
ります。何をやってるのか、何をどう進めてるのかっていうのは、話は聞いてないので、第
1回も出てないので分からない部分もあると思うのですが、本日も、次、3回がある
ので、しっかりと参加していきたいと思っておりますので、今年もよろしくお願いいたします。以
上です。

一同 よろしく申し上げます。

神谷 ありがとうございます。それでは、野口座長より左回りで自己紹介をお願いいたし
ます。

野口 野口です。この会議の座長を仰せつかっております。私は新宿の人間ではないんですけれども、大学で図書館情報学という分野を研究しております、前任の座長から、ぜひ引き受けてほしいということで頼まれてまして、現在、座長を仰せつかっているということになります。

あと、全国学校図書館協議会という団体の理事長も務めていて、子どもの読書とか、学校図書館の研究をしております。どうぞよろしくお願いいたします。

神谷 木本委員、よろしくお願いいたします。

木本 中学校 PTA 協議会の代表で、牛込三中、PTA 会長の木本です。どうぞよろしくお願いいたします。

中丸 中央図書館読み聞かせ会、代表をさせていただいております、中丸朋美と申します。よろしくお願いいたします。週に1回、日曜日の午後に、私どもの団体で、こちらの図書館で読み聞かせ活動をさせていただいております。よろしくお願いいたします。

徳永 子ども家庭部の子ども家庭課長をしております、徳永でございます。よろしくお願いいたします。子ども家庭部は、簡単に言いますと、子どもたちを巡るさまざまな行政サービスの中で、学校ではないことをやっています。保育園であるとか、あるいは学童クラブであるとか、そういったことを所掌している部です。本日はよろしくお願いいたします。

関本 教育支援課長、関本です。よろしくお願いいたします。教育支援課は学校の図書館を担当しているという形で、こちらのほうに参加させていただいてます。よろしくお願いいたします。

山本 あらためまして、中央図書館長、山本です。よろしくお願いいたします。

関口 中央図書館、資料係長の関口と申します。主に、一般向けの図書と、視聴覚、雑誌の購入などを担当しておりますが、先ほども館長からお話がありましたとおり、昨日、開始しました新システムと同時に、電子書籍のコンテンツを提供することになりまして、昨日から公開されております。一般向けと児童向けと用意しておりますので、よろしければご覧いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

大山 中央図書館こども図書館の大山と申します。よろしくお願いいたします。

大野 事務局の大野と申します。よろしくお願ひいたします。

神谷 ありがとうございます。では、ここから野口座長に進行をお願いいたします。よろしくお願ひいたします。

野口 では、あらためまして、皆さん、おはようございます。

一同 おはようございます。

野口 では、今年度、第2回目の新宿区子ども読書活動推進会議を始めていきたいと思ひます。今、関口委員からあったように、電子図書館がちょうど昨日、オープンということなんです。いよいよ、新宿区も電子図書館がスタートしたということなので、ぜひ、区民の皆さま、ご活用いただけたらと思ひます。

では、お手元の次第に沿って進めていきたいと思ひます。まず、議題の1番目ですね。令和6年度新宿区立図書館を使った調べる学習コンクール応募状況について、事務局からご説明をお願いします。

大野 本来なら子ども図書館長の平野が説明させていただくところですが、体調不良のため、大野が説明させていただきます。今、お話しいただいたように、令和6年度新宿区立図書館を使った、調べる学習コンクールの応募状況について。調べる学習コンクール、地域コンクールの応募状況、地域コンクールの概要ですね。

主催が新宿区教育委員会、それと新宿区立図書館で、対象が新宿区内に在住、在学、小学生、中学生、高校生になります。審査は各校の担当図書館で審査後、合同審査会で館長賞、優秀賞、奨励賞を選出。今回は表彰式が11月10日、日曜日に四谷区民ホールにて開催し、館長賞、優秀賞を表彰いたしました。

コンクールの参加校、応募数です。令和6年だけ申し上げます。令和6年、小学生30校、中学校7校、高校3校、合計40校。応募者数、小学生1,295名、中学生580名、高校生240名、合計2,115名の応募がございました。

審査結果、合同審査会、それが令和6年10月13日に開催して、審査結果は以下のとおり、館長賞17名、優秀賞15名、奨励賞152名、合計184名、出ております。そのうち、館長賞、優秀賞が全国大会のコンクールのほうに出品しております。32作品、出ております。

裏面に参りまして、スケジュールとしましては、きょう、1月16日、全国コンクールの審査発表が1時から、主催の公益財団法人図書館振興財団のホームページに記載のほうで、特別サイトのほうでご覧いただけます。1時から発表になりますので、ちょっとこの会議でご報告できませんので、次回、ご報告させていただきます。

予定では3月にレプリカ作成、配布という形で、館長賞、全国大会のコンクール受賞者の

作品を作成し各校へ配布ということで、こちらになります。小学生低学年、中学年の部、小学生中学年の部に、小学生高学年の部、小学生の高校の部という形で、こちらがレプリカという形で、後で見ただけであればと思いますが、そのまま写真を撮りまして、応募作品、全部、写真になっております。それで、学校と図書館に配布して、皆さんにご覧になれるようになっております。

ただ今の説明について、ご意見、ご質問がございましたらお願いいたします。よろしいですか。

野口 ということで、ご説明はいただきました。

大野 あとは、詳細のものが後ろに、3 ページ、4 ページ、5 ページと詳細ですね。並んでおります。応募者数と学校の名前等ですね。参加校という形で出ております。

野口 ご説明をありがとうございます。今、事務局からご説明いただきましたけれども、今年度のコンクールの表彰式は既に 11 月 10 日に行われて、全国コンクールのほうの結果はきょうの午後 1 時に発表になるということですので、全国コンクールでの入賞状況についてはまた次回の会議のときにご報告いただけるということのようです。

私から 1 点、レプリカを作成されるのは、館長賞を受賞された作品に加えて、全国コンクールで入賞された作品ということですが。

大野 そのとおりです。

野口 そういうことですね。新宿区のコンクールで優秀賞とか奨励賞を取った作品は、どこかで見ることができる機会はあるのですか。

大野 皆さん、作品、もう返してしまっておりますので、見ることはできないです。

野口 そうなんですね。なるほど、分かりました。区民とか区内の子どもたちが見ようと思えば、そのレプリカになってるものを見ると、そういう形ですね。

大野 そうです。という形になります。

野口 分かりました。それは、各学校にも配布されているのでしょうか。

大野 1 部ずつ配布しておりますし、新宿区立の図書館にも貸し出しようと、貸出禁止っていうか館内のみの、貸出禁止っていう形で所蔵しております。

野口 分かりました。区内の子どもたちが見る機会はあるということですね。

大野 ございます。

野口 いかがでしょうか。では、木本委員、お願いします。

木本 それぞれの応募数、応募校数を、拝見をいたしまして、区内、区立学校でいうと、中学校が10校中7校だなどと思って見たら、わが牛込第三中学校が応募してない状況がありまして、ショックを今、受けてるところもあるんですけども。

ただ、やっぱり数の偏りというか、見ますと、100を超える所というのは、小学校、中学校もそうですけれども、多分、学校を挙げて取り組みなどを行っているのかなというふうに思いました。ただ、こういうのがあるよという形でやった所は少ないのかなと。

学校を挙げてやってるような状況とか、もし、分かるようだったら、どういうふうやってるとか、教えていただけることはできるかなというふうに思ったんですけども。

大野 地域割りをしております、学校の。図書館ごとに地域割りの学校を作ってまして、こちらから、地域図書館のほうから学校のほうに、参加してみませんかという形で、それに対して、学校からの反応で参加したいと、説明に来てくれということで、子どもたちの前で説明をしたりとか、あと、夏休みですと、講座を開いて調べる学習コンクールの手ほどきみたいなのもしております。

木本 これを拝見しまして、私も学校のほうに少し、こんな状況だったよと伝えたいなというふうに思いましたし、こういうきっかけがやっぱり一つ、図書館と子ども、児童、生徒たちの関わりのきっかけにも、きつとなるんだろうなというふうに思いますと、より多くの方が参加できるように、われわれも努力したいなというのは感じました。

野口 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。では、中丸委員、お願いします。

中丸 こちらの作品の、館長賞ですとか、リストを拝見いたしまして、いろんな分野にわたって調べ学習を進められているということで、皆さん、レベルが高いというか、題名を見るだけでもびっくりすることだったんですけども、こうした、どんな分野があって、どういう調べ方があるよとかっていうのは、説明のときになんかヒントみたいなのは、出したりとかっていうのはあるんでしょうか。

大野 各地域図書館が担当しておりますので、講座を開いたり、どういうふうに、何を興味、

持たせるのかっていう、持ってもらうかとか、図書館を使ったコンクールですので、図書館、いろんな本がありますので、いろんな分野を見ていただいて、どんどんそれは、どんどん作品が決まっていく。大ざっぱなものから、だんだんとテーマを決めていくっていうアドバイスをしたりとかしております。

中丸 一人一人が興味を持ったところに、アドバイスを集中していくみたいな感じで。

大野 そうですね。

中丸 ありがとうございます。

野口 他にいかがでしょうか。どうですか。

山本 私のほうから若干、補足をさせていただきます。木本委員のほうからございました、人数の差のところなんですけれども、担当の地域図書館のほうから、担当の学校のほうにアプローチはしてるんですが、学校の校長先生ですとか、国語の先生ですとか、そういったところで何を重点に置くのかということとところが学校によって違いますので、その差がどうしても出ちゃうのかなというふうには思ってます。

ちなみに、早稲田小学校、かなり数が多いんですが、ここは校長先生が、この調べる学習コンクールにすごく熱心だというような話は聞いてます。ですので、やはりそういう熱心な先生がいる所の差は大きいのかなということと、あと、夏休みについては、調べる学習だけじゃなくて、作文ですとかポスターのような、絵画のようなものというようなものもいくつかありますので、そういった中で、子どもたちに全部、やってもらってというところ、無理だと思いますから、その辺でどれを学校として重点に置いているのかっていうところの差は、どうしても出ちゃうのかなというふうには思ってます。調べる学習がいいのか、読書感想文がいいのか、絵画的なものがいいのか、それはそれぞれ、学校の考え方も出ちゃってるのかなというふうには思ってます。

あと、もう一点なんですけれども、館長賞リストと優秀賞リストを後ろのほうに付けてあるんですけれども、タイトルを見ると、特に高校生とかになりますと、すごくマニアックなテーマだなんていうのもありますので、そういったところを、図書館を使って研究していただくということについては、非常にいいのかなと思ってます。

ただ、中学校、高校になると、図書館を使わなくなるっていうのがどうしても多くなってきますので、やはり部活ですとか、塾に行ったりですとかそういったこともあるでしょうから、強制はできないんですけれども、ただ、そういった中でも図書館の魅力をどう発信していくのがいいのかというのが、うちのほうの課題だなというふうに考えてございますので、特にPTAの皆さまがたには、宣伝をしていただければありがたいと思っておりますので、よ

ろしくお願いいたします。以上でございます。

野口 ありがとうございます。本当、中高生になると、大学の卒論も顔負けのタイトルがありますよね。そこに置いてあるのは今年のですか？ 去年の？

大野 これは去年のです。

野口 今年のも出来上がりましたらぜひ、拝見したいなど、楽しみにしています。

山本 ちょっと見ていただければ分かると思うんですけども、1人当たりが、調べた資料っていうんですかね。すごい何ページ、何十ページもあつたりしますので、これはすごいなっていう作品の塊になってますので、後でぜひご覧いただければと思います。

野口 では、よろしいですかね、本件に関しては。ありがとうございます。では、続きまして、議題の2ですね。絵本でふれあう子育て支援、令和6年度、0歳児健診配布絵本の選定についてですけども、では、こちら事務局から、お願いします。

大野 担当のほうから説明させていただきます。

大山 皆さま、お手元の資料2の1と、上に打ってあるものをご覧いただければと思います。絵本でふれあう子育て支援とは、新宿区内にお住まいの、0歳児健診対象者の方に、絵本2冊と読み聞かせの体験をプレゼントするという新宿区の取り組みです。

絵本2冊というのは、0歳児向け1冊、1歳児向け1冊で、合わせて2冊をお渡ししております。本日、皆さまにお願いしますのは、来年度、令和7年度に配布するものをどれにするかというのを、皆さまからご意見をいただいて、投票用紙に丸を付けていただいて、数が多かったものを来年度、区民の皆さんにお配りする本として決定する手続きをお願いいたします。

事業の概要をご説明いたしますと、これはもともとイギリスで始まった取り組みでして、絵本と読み聞かせの体験をプレゼントして、赤ちゃんがこれからいろんな絵本に出会ったり、それから、図書館に通うきっかけになったりということを目指して始まった取り組みです。

同様の取り組みは全国で行われておりまして、その内容はさまざまなんですけど、例えば、0歳だけにお渡ししている所もあれば、0歳と小学校入学時の6歳にお渡ししている所もあります。

新宿区の場合は0歳児健診の対象者の方と、3歳児健診の対象者の方にお渡ししております。

0歳の場合は、保健センターで健診を受けるときに対象の方がいらして、この本をお渡しするという形式です。ここにある、0歳児向け、三つの候補。『くつついた』、『がたんごとんがたんごとん』、『はらぺこあおむし』。それから、1歳児向けの候補。『ぺんぎんたいそう』、『だるまさんが』、『どんどこももんちゃん』。

こちらのほうに現物、ご用意してございますので、この後、お時間を取って見ていただいて、自分はこれがいいんじゃないかというものに丸を付けていただきます。対象の方はおおむね2,200人ぐらい、いらっしゃいます。ですので、この場で皆さんのご意見をいただいて決定した本は、来年度、2,200人のお子さまの元にお届けいたします。

新宿区は健診、いろんな方がいらっしゃいまして、日本語があまり分からないような外国の方がいらっしゃったり、ひとり親の方がいらっしゃったり、本当にさまざまな方がいらっしゃるんですが、今、見ていただいて、この本はこんな人の所で温かく読まれてくれたらいいなという思いを、皆さま、込めて選んでいただけたらと思います。

ちょっと長めに時間、取りますかね。45分まで読む時間を設けて、ここにある見本の本を見て、丸を付けていただければと思います。記載しましたら、もちろん、名前とか書かなくて、丸だけで結構ですので、ここに裏返しに置いていただければ、われわれ事務局が集計いたします。45分、大丈夫ですか。では、お席、立っていただいて結構ですので、こちらの見本の本をぜひご覧ください。冊数が限られておりますので、譲り合ってください。じゃあ、どうぞ。

野口 質問ですけど、今年度はここに挙がってる作品を配っているですか。

大山 今年度は全く別でした。今年度は『びよーん』と『くだもの』という、カエルの表紙のものと、サクランボの表紙のものを配りまして、毎年、変えているんです。きょうだいのお子さんがあると、ご本がかぶったりしてしまうかもしれないので。ですので、直近3年のものは候補から除いております。

野口 そういうことなんですね。分かりました。ありがとうございます。

大山 他にもご質問などありましたら、お受けしますが。読みながらでも大丈夫ですが、何かあれば、お伝えいただければ。よろしく願いいたします。どうぞご覧ください。

(無言)

大山 こちらのほうに、裏返しにして置いていただければと思います。

(雑談)

大山 集計、ちょっと時間かかるので、もしよろしければ、こちらもご覧ください。置いておきますね。

(雑談)

大山 予定よりもちょっと早いんですが、集計結果が出ましたので、お話しさせていただきます。0歳のほうは、『はらぺこあおむし』が選ばれました。1歳のほうは『だるまさんが』が選ばれました。来年度、新宿区内のお子さんにお渡しする本は、この2冊に決定しました。たくさんおうちで読んでもらえることを祈っております。どうもご協力ありがとうございました。

質問事項が出たんですが、皆さんにお配りした紙に価格が書いてありますよね。ただ、例えばこの『はらぺこあおむし』は、裏、本体の所には本体価格900円プラス税と書いてあります。この大幅に安い価格が紙に書かれているのは、NPOブックスタートさんから、この事業のために本を買うときは、大幅な値引きをしていただけるんです。

ですので、ご家庭で買うときは900円プラス税のものが、私たちがこの値段で買ってお渡しすることができるという仕組みになっています。おうちで買うにはためらってしまう価格のものを、こういう仕組みを使ってお届けすることができるのは素晴らしいNPOさんの、ありがたい取り組みだと思っています。

それでは、この2冊に決定しましたので、座長様にお返しします。よろしく願いいたします。

野口 ありがとうございました。ただ今、委員の皆さんが推薦していただいた内容を集計していただいて、0歳児は『はらぺこあおむし』、1歳児は『だるまさんが』に決定したということでした。さっきも言ったんですけども、全部いい作品なので、選ぶのが難しかったですね。でも、五つ全部を差し上げるわけにもいかないので、今回、その中から1作品ずつ、選ばれたということになります。

これは、今年度、選んで、来年度、配布っていうことですね。

大山 今から注文をかけて、来年度から配布になります。

野口 わかりました。これについて、何か追加でのご質問などはありますか。では、お願いします。

木本 質問ではないんですけども、0歳児向けで、私は『くっついた』がすごくいいなと思ったんですね。ただ、ちょっと選ばなかったんですけども、最後にお父さんとお母さん

とくつつく場面が、最後、それで終わっていて、最初にシングルマザーの方のっていう話をちょっと浮かんでしまって、本当は、全体の構成とかいいなと思ったんだけど、そういう所に渡ったらというのを考えてしまったら、ちょっと選べなくてっていうのもあったので、逆にこれ、選ばれちゃったらどうしようかなって、結果、出た後なんであれなんですけれども、そういうことを思ったのが1点、ありました。内容は、それが本当は一番いいなと思ったから、いいかなって思ったんですけど。

野口 ありがとうございます。非常に重要なご意見だったと思います。他には何かお気づきのこととかありますか。

山本 すいません。自分のところで申し訳ないんですけど、資料2の1がお手元にあるかと思うんですが、こちらの上のほうに、令和6年度、0、1歳児、配布絵本選定候補と書いてございますが、令和7年度の間違いでございますので、訂正のほどよろしく願いいたします。

野口 ありがとうございます。他にはよろしいですかね、この件に関しては。

では、続きまして、次第の5ですね。その他ですけれども、こちらに関して、何かございますか。では、関本委員、お願いします。

関本 教育支援課長、関本です。前回、話題になりました、第六次の子ども読書推進計画の中で、47番と48番っていうものが、読書感想文の関連の事業となっております。来年度から少し変更になりますので、それのご報告という形になります。

まず、そもそも読書感想文の取り組みを、今、どういうふうにやってるかっていうところになります。学校のほうで読書感想文を学校の中で募って、各学校、小学校が29校、中学校が10校あります。小学校は低学年、中学年、高学年というふうな形で分けて、それぞれ、学校から1作品出してもらいます。中学校は1作品出してもらいます。

そこに出してもらったもので、文字起こしと印刷をして読書感想文集の『けやき』を発行します。次に、その学校から選出されたものについて、48番での『けやき』の表彰という所の中で、優秀な作品を選びまして、区長賞、優秀賞を選出して、その方々を表彰します。選ぶ数は低学年、中学年、高学年、中学校で1作品、区長賞で、優秀賞は3作品と、中学校は2作品という形で選ぶという形になります。

ここには書いてないんですけど、選ばれた作品を全国のコンクールのほうに出品するのが1年間の流れになっています。47番のほうは、この『けやき』の文集を作るという形で、後段の48番のほうは、この中から選出された人を表彰するという形になっています。

今回、変更する点は、『けやき』の文集、印刷して製本するのはやらなくなります。です

が、ここの内容の所を見ていただいて、集まった読書感想文を電子データ化し、タブレット端末等で閲覧ができるよう、学校図書館や区立図書館に提供し、読書の案内役として役立たせますという形にします。

今、子どもたちは1人1台のタブレット端末を持っていますので、そこからでもみんなが見えるようにします。もともと『けやき』の活用方法というのは、期間中の目標っていう黒いほうの所を見ていただいて、各学校で読書指導において活用するとともに、学校の図書館や区立図書館の蔵書として、本との出会いのきっかけになるようにしますという形ですので、電子で持つことによって、新しい部分についてはそういう活用をするし、これまでの『けやき』というのは残りますので、それらも一緒に本との出会いのきっかけとなるような形でやりますというところで、まず、そこが変更点となります。

次に、48番の表彰という形ですけれども、これまで区長賞としていた部分を、最優秀賞とします。教育委員会の方で表彰する場所と時間を設けて、最優秀賞、区長賞の人についてはやっていたんですけども、これからは、最優秀賞、優秀賞ともに学校のほうで表彰してもらおうというような形に変わります。

この計画では、そこまで細かい具体的なことが書かない方式なので、これまでの表現の仕方に合わせると、白い所の書き方、こういう形で表彰しますよという程度のことが載るといふふうになりますので、読書感想文に取り組むってところは変えないですし、あと、先ほど館長からも、調べる学習コンクールの募集のようなものがあるという中で、私たちのこの担当のほうもいろいろ調べたんですけども、当然、ポスターのコンクールもあるし、環境のコンクール、日記のコンテストとか、あと、薬物乱用のポスターとか標語とか、すごくたくさんあるってところは確認していますので、それぞれが、個人なり学校なりがどれに取り組むかっていうようなところでやっていただきながら、当然、読書感想文もその中にあるっていうようなところで、これからは学校のほうには取り組んでいきたいし、指導していただきたいというような中で、そういう形で変えるというところがありますので、こちらでご意見をお伺いしながら、来年度からそういう形に変更となるという報告です。以上となります。

野口 ありがとうございます。ただ今、関本委員から手元の資料について変更点ということで説明がありました。こちらについて、他の委員から何かご質問とかございますか。

『けやき』をデジタル化するということですね。電子版にしたものは、子どもたちはタブレットで閲覧できるわけですね。従来ですと冊子は区の図書館にも所蔵されていて、区民の方も読めたわけですが、電子版は昨日始まった電子図書館に搭載するのですか。

関本 電子で収めるような形にしたいと思っています。具体的にどういう手法で、どういうふうにやるかっていうところは、相談しながらやっていきたいと思っています。

野口 そうすると、電子版にしても、タイトルって必要ですよ、電子版にも『けやき』のようなタイトルがあったほうが、電子図書館に搭載はしやすいように思ったりしました。すいません、なんか余計なことかもしれませんが。

関本 現場レベルっていうか、学校レベルでの話なんですけれども、この文集に『けやき』っていう名前を付けてスタートしました。さっきのレプリカは、本当に手書きのをそのまま写真でなってるかと思うんですけど、この『けやき』は文字起こしをしてやっています。

そういった関係で、学校のほうで何回か間違いがないかどうか確認とかいろいろなものをしてお願いしている中で、結構、学校の先生の負担がある『けやき』っていうイメージがあるので、ちょっと『けやき』っていう表現から離れようかっていう狙いもあったので、わざと読書感想文の、こちらの表題が読書感想文の募集、読書感想文の表彰っていうふうな形で、両方とも『けやき』の発行、『けやき』の表彰っていうふうに、これまではなっていたんですけども、そういうことがあって、『けやき』を使わないというところになった経緯がございます。

野口 そうなんですね。

関本 今日の会議を受けた後、学校の方の全体会の中でも説明していきますので、そういったところの意見も取り入れながら、先生がおっしゃるように、こちらに収めるからにはなんか表題があったほうが良いと思うので、そこで『けやき』を残すのも私はいいかかなとも思うので、そこら辺はちょっと私だけの意見では決められないので、確認しながら、そういう意見もあったっていうことを伝えながらやっていきたいと思います。ありがとうございます。

野口 学校で共有する分には、別に表題なくても、子どもたちはタブレットで閲覧できますけどね。ただ、電子図書館上はタイトルは必要なんだと思うので、そこだけ『けやき』を残すっていうのも手かもしれないですよ。

関本 そうですね。ありがとうございます。

野口 他にいかがですか。確かに、子どもたちが手書きしたのを、先生が入力し直すというご負担を考えると、かなり大変なものがあるなと思います。とはいいつつ、読んだ感想や考えたことを表現していくのはすごく大切なことですからね。こういう形で続けていただけるのは、ありがたいと思います。

山本 今、電子データでいただいたものについては、うちの、新宿電子図書館のほうのペー

ジのほうに載せようとは思っております。ただ、実際のボリューム、データ化したときのボリュームがまだはっきり分かりませんので、その辺も踏まえながら調整はしていきたいとは思っておりますので、うちのほうとしては載せないという選択肢はないと思っております。

あとは、今、先生がおっしゃったとおりに、タイトルをどうするのか。単純に、例えば令和7年度、小中学校作文集とかっていうんだと、ちょっとどうなのかなって気もしますので、その辺も合わせて検討いただくとありがたいかなと思いますし、『けやき』がどうしても嫌だって言うんであればあれなんですけども、『けやき』の名前を引き継いで、単純にデジタル化しますよっていうのであれば、図書館利用者の皆さまからは探しやすいのかなっていうのはありますので、しなさいよとは言えませんので、ご検討をよろしく願います。

関本 ありがとうございます。

野口 他にはよろしいですか、この件に関しては。ありがとうございました。

関本 ありがとうございます。

野口 では、こちらで、次第で記載されている事項は終わりになりますが、事務局からはその他、ございますか。願います。

大野 次回、第3回の開催のことなんですが、3月中を予定しております。できるだけ早く決めて、皆さまがたに審議していただけるようにしたいと思っております。よろしく願います。

野口 ありがとうございました。次回は3月の中旬ということですが、予定より早く進行しましたけれども、よろしいですか。では、以上をもちまして、今年度、第2回目の新宿区子ども読書活動推進会議は終了したいと思います。皆さま、どうもありがとうございました。

一同 ありがとうございました。

(了)